

分科会等開催案内

2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会

テーマ：講義とワークショップによるチームマネジメント実践力の涵養

本学会では、2010年度より医師事務作業補助者の養成講習会を開催してきたところですが、この度会員の強い希望があり、医師事務作業補助者の指導者を養成するための講習会を下記要領で開催することとなりました。本講習会は、指導者として補助者を育成し、またチームのリーダーとして必要な、書類、資料作成や登録、統計の知識と技術、マネジメント、業務連携の手法、さらに今後の展望について、講義、演習とワークショップを通じて修得し、現場で役立つ実践力を養うことを目的としています。

全課程受講者には、修了証を交付します。実務研修の為に定員が限られていますので、お早めにお申込み下さい。

なお、本講習会は医師事務作業補助者の資格取得のための講習会ではありませんので、ご注意下さい。

- ・日時 2014年10月25日(土)、26日(日)、
11月15日(土)、16日(日)
- ・場所 日本医科大学 教育棟3階 講義室3
(〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5)
- ・プログラム ※授業の順番等は変更になる場合があります。

第1クール

第1日 10月25日(土)

- 8:30 受付
- 9:20 開講式・オリエンテーション
- 9:30～10:30 医療保険
- 10:30～11:30 診療報酬
- 11:30～12:30 DRGとDPC
- 12:30～13:30 昼食
- 13:30～14:30 医療の流れ
- 14:30～15:30 個人情報保護・情報セキュリティ
- 15:30～16:30 統計、Excelの応用
- 16:30～17:30 小児科系疾患と臨床用語

第2日 10月26日(日)

- 8:20 受付
- 8:30～9:30 内科系疾患と臨床用語
- 9:30～10:30 業務マネジメントの実践
- 10:30～11:30 海外における医師事務作業補助業務
- 11:30～12:30 メンタルヘルス
- 12:30～13:30 昼食
- 13:30～14:30 外科系疾患と臨床用語
- 14:30～16:30 ワークショップ：業務の構築と人材育成

第2クール

第1日 11月15日(土)

- 9:00 受付

- 9:30～10:30 診療録の書き方
- 10:30～11:30 書類作成のポイント
- 11:30～12:30 産婦人科系疾患と臨床用語
- 12:30～13:30 昼食
- 13:30～14:30 整形外科系疾患と臨床用語
- 14:30～15:30 補助者業務とその現状
- 15:30～17:30 ワークショップ：業務連携と役割分担

第2日 11月16日(日)

- 8:20 受付
- 8:30～9:30 接遇とマナー
- 9:30～10:30 がん登録
- 10:30～11:30 NCD登録
- 11:30～12:30 特別講演
- 12:30～13:30 昼食
- 13:30～14:30 コーチング
- 14:30～15:30 診療録管理
- 15:30～16:30 経理・秘書業務

〈募集要項〉

- 対象 ・医師事務作業補助者としての実務経験を有する方
・医師事務作業補助者の育成に携わる方、または予定の方
- 会費 4日間全課程一括 40,000円
(但し、非学会員 50,000円)
- 定員 100名(定員を満了次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申込み下さい)
- 受付期間 2014年9月1日(月)～2014年9月30日(火)
- 問合せ先 日本医療マネジメント学会事務局

2014年度医療安全分科会

テーマ：医療安全からの可能性…もう一歩先の医療マネジメントへ

医療安全マネジメントは、日本に導入されて10数年、世界的に見ても、前例のないスピードで全国に広がり定着しました。実は、医療安全の活動は、これまで個人芸、「匠と女将」の文化で支えられて来た医療界に、「システムのマネジメント」を確立する経営革命でした。

ここ3年間に亘り、この医療安全分科会では参加者の皆様とその過程を共有し、今後の展望を模索して参りました。そして、とうとうその可能性へと辿り着きました。医療安全管理者によって培われた新しい文化は、「医療マネジメント」の中核として、これからは医療安全のみならず、種々の分野に応用される可能性を孕んでいるのではないのでしょうか。実際に参加者の皆様との交流を通して、医療安全管理者の悩み、成功体験の中に、これから発展する様々な種子が潜んでいることを学びました。その種子が、病院経営全体に広がり育っていき、マネジメントが向上していくことが、また、医療安全の向上に跳ね返って来ます。キーワードは、「新しい医療マネジメント」です。

今回の分科会では、具体的にその新しいマネジメントの実際のツールを整理し、最新の経営理論の中に位置付